

平成28年7月
下野市教育委員会

平成28年度とちぎっ子学習状況調査の下野市の結果は、小学校ではすべての領域で、中学校では国語「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、社会「世界各地の人々の生活と環境」、理科「身近な物理現象」・「植物の生活と種類」・「大地の成り立ちと変化」以外の領域で県の平均正答率を上回る結果となりました。

①教科に関する調査

- <問題別> □「基礎・基本」の問題
□「思考・判断・表現」の問題
- <領域別> ◇国語（小） 4領域 ◇国語（中） 4領域
◇算数（小） 4領域 ◇社会（中） 5領域
◇理科（小） 2領域 ◇数学（中） 4領域
◇理科（中） 4領域
◇英語（中） 3領域

②児童生徒質問紙調査

- 質問数 小学校は95問、中学校は114問
 - 回答方法 小学校（選択回答式）、中学校（選択マークシート式）
 - 質問内容 小学校、中学校ともにほぼ同じ内容（教科数等の差による違いあり）
 - 家庭での学習 ○読書 ○宿題 ○学ぶ意欲 ○学校での様子 ○家での生活
 - 自分自身のこと ○家族のこと ○社会のこと ○とちぎっ子学習状況調査のこと
 - 教科の学習のこと
- 【カテゴリー分類】 ○学びの基礎力 ○社会的実践力 ○学級力 ○家庭学習力

【H28問題別比較】 とちぎっ子学習状況調査結果の下野市と県平均との比較

（基礎）＝「基礎・基本」の問題、（活用）＝「思考・判断・表現」の問題

- ◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）
－同じ（±1ポイント未満）
▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

小学校4年	平成28年度	小学校5年	平成28年度	中学校2年	平成28年度
国語 基礎	○	国語 基礎	○	国語 基礎	－
国語 活用	◎	国語 活用	○	国語 活用	○
算数 基礎	○	算数 基礎	○	社会 基礎	－
算数 活用	○	算数 活用	○	社会 活用	○
理科 基礎	○	理科 基礎	○	数学 基礎	○
理科 活用	○	理科 活用	○	数学 活用	◎
				理科 基礎	▽
				理科 活用	－
				英語 基礎	◎
				英語 活用	◎

※基礎＝「基礎・基本」の問題
※活用＝「思考・判断・表現」の問題

【H28 領域別比較】 とちぎっ子学習状況調査結果の下野市と県平均との比較

◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

－同じ（±1ポイント未満）

▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

小学校国語	4年	5年	小学校算数	4年	5年
話すこと・聞くこと	○	○	数と計算	○	○
書くこと	◎	○	量と測定	○	○
読むこと	○	○	図形	○	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	－	数量関係	○	○
小学校理科	4年	5年			
物質・エネルギー	○	○			
生命・地球	○	○			

中学校国語	2年	中学校社会	2年
話すこと・聞くこと	○	世界の地域構成	▽
書くこと	－	世界各地の人々の生活と環境	－
読むこと	○	世界の諸地域	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	－	古代までの日本	○
		中世の日本	○
中学校数学	2年	中学校理科	2年
数と式	○	身近な物理現象	▽
図形	○	身の回りの物質	○
関数	○	植物の生活と種類	－
資料の活用	○	大地の成り立ちと変化	▽
中学校英語	2年		
聞くこと	○		
読むこと	◎		
書くこと	◎		

1 小学校のとちぎっ子学習状況調査結果について

小学校の両学年の全教科において「基礎・基本」と「思考・判断・表現」の問題ともに、県の平均正答率を上回りました。

国語では、4年生で県の平均正答率をすべての領域で上回りました。特に、4領域の内「書くこと」は7ポイント以上上回りました。「読むこと」も4ポイント以上上回りました。5年生では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」が4ポイント以上上回りました。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、県の平均正答率とほぼ同じでした。

算数においては、4年生では「数量関係」において県平均を5ポイント近く上回りました。5年生では、「図形」が4ポイント近く上回りました。他の3領域は1～2ポイント程度上回りました。

理科は、県の平均正答率を2領域とも上回りました。4年生では、両領域とも県平均を4ポイント近く上回りました。5年生では、3ポイント程度上回りました。

2 中学校のとちぎっ子学習状況調査結果について

国語は「話すこと・聞くこと」、「読むこと」で、2ポイント以上上回りました。「書くこと」は県平均とほぼ同じでしたが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では0.5ポイント程度下回りました。

社会では「中世の日本」で4ポイント程度上回りましたが、「世界の地域構成」、「世界各地の人々の生活と環境」で、1ポイント程度下回りました。他の2領域は2ポイント程度上回りました。

数学は「図形」で4ポイント以上上回りました。他の3領域は1～3ポイント程度上回りました。

理科は「身の回りの物質」で2ポイント以上上回りましたが、「身近な物理現象」、「植物の生活と種類」、「大地の成り立ちと変化」の3領域で1～3ポイント程度下回りました。

英語は「書くこと」で、県平均を8ポイント以上、「読むこと」で5ポイント以上上回っており、「聞くこと」でも3ポイント以上上回りました。

3 小・中学校の児童生徒質問紙調査結果について

【H28 カテゴリー別比較】とちぎっ子学習状況調査結果の下野市と県平均との比較

◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

－同じ（±1ポイント未満）

▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

カテゴリー		小4	小5	中2
学びの基礎力 (教科学力や社会的実践力を身につけていく上で基礎になる力のこと)	豊かな基礎体験 (交流・活動したりする自然体験や社会的・対人体験)	○	－	－
	学びに向かう力 (好奇心や学ぶ楽しさ、向上心や自己有能感、達成感)	－	－	－
	自ら学ぶ力 (自主的・意図的に学習を進めるスキルや態度・習慣)	◎	○	－
	学びを律する力 (学習行動を適切な方向へとコントロールする力)	○	○	－
社会的実践力 (集団の中で良好な人間関係を結び、問題を主体的に解決しながら、自らの成長を図る能力・スキルのこと)	問題解決力 (問題や課題を発見し主体的に解決する能力・スキル)	－	－	▽
	社会参画力 (集団・社会への貢献や関わろうとする態度や力)	○	○	－
	豊かな心 (良好な人間関係を基盤によりよく生きようとする態度や力)	－	－	－
学級力 (学び合う集団を形成する力のこと)	対話力 (お互いを認め合い、対話する学級の土壌)	○	○	○
	支え合う力 (協調してトラブルを解決したり、支え合う学級の土壌)	○	○	○
	共生力 (認め合い、安心してともに共生する学級の土壌)	○	○	○
	規律力 (生活規則やルール、社会規範などを順守する学級の土壌)	○	－	○
家庭学習力 (家庭での宿題、予習・復習、自主的学習等を計画的かつ自律的に行うために必要な能力や態度のこと。また、そのための環境・土壌など含む)	○	－	－	

小・中学校ともに、「学級力」に関する項目ではよい傾向が見られました。4年生では、全項目で県平均を上回りました。「学びの基礎力」に関する項目では、特に「自ら学ぶ力」で、5ポイント以上上回りました。5年生でも「自ら学ぶ力」で2ポイント以上上回りましたが、「学びに向かう力」、「家庭学習力」で県平均を下回りました。中学2年生では「学級力」が3ポイント近く上回りましたが、「学びに向かう力」、「学びを律する力」、「問題解決力」、「豊かな心」の項目で、県平均をわずかに下回りました。

今後、この結果をさらに詳しく分析し、学校・家庭・地域における学習指導や生活指導の工夫改善等に生かし、児童・生徒のさらなる学力向上につなげていきたいと考えています。